

保育科学生の子どもの歌に関する現状と一考察

－音楽表現における取り組みから－

久世 安俊

Current status and consideration of children's songs

for childcare science students

-From efforts in musical expression-

Yasutoshi Kuse

Abstract

From the lecture on music expression in the first half of this year, we plan to learn about the current state of music-related knowledge of students aiming to become childcare workers and clarify the future of music education. In particular, the current situation and future issues are extracted from the answers related to children's songs (singing).

Key words : Musical expression, Children's song, Doramujika, Singing,

1. はじめに

本年度前期の音楽表現の講義から、保育者を目指す学生の音楽に関わる知識の現状を知り、今後の音楽教育の在り方を明らかにする計画である。特に子どもの歌（歌唱）に関わる回答から、現状と今後の課題を抽出する。

2. 令和2年度「幼児と音楽表現」の取り組み

本科目は前期に開講される半期科目で、保育士資格と幼稚園教諭免許の必修科目であり卒業必修の科目でもある。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、大きくシラバスを変更することを余儀なくされた。授業の形態についても、通常一教室でクラス授業を行っていたが、クラスの人数を半分に分け、二つの教室を使い、子どもの歌の歌唱演習と音楽理論・楽典の講義を行う形態で行った。

楽典の内容としては、譜表、音符、休符、拍子、音階、音程など必要最低限の範囲に絞り

込み、練習問題を多く解かせた。歌唱については、毎回テキストから 10 曲程度を選曲し、作品のポイントや解釈、また表現方法に触れながらユニゾンで歌っていった。グループワークによる音楽劇の創作と発表も取り入れている。本年度は総合的な表現としてドラムジカをとりあげる予定であったが、密集と飛沫感染を避けるために実践は叶わなかった。

教室の換気と学生同士の距離の確保は徹底して行った。飛沫の最たる歌唱については、学生の息苦しさをもどかしく感じながらもマスクを着用した状態で行った。また毎回の授業で課題を課し、シラバスの変更による不備を補っていった。

歌唱発表とドラムジカの発表は行えなかったが、学生たちがどのような発想力と創造力を持っているのかをうかがうべく課題とした。

3. 課題の実施

・対象

「幼児と音楽表現」を受講した保育科 1 年生 51 名を対象。

・課題内容

- (1) 「年長組の 1 年間」と題し、各月で歌わせたい 1 曲、計 12 曲を選曲。
- (2) ドラムジカの作成。

・実施日

- (1) 令和 2 年 7 月 13 日課題提示 7 月 20 日回収 回答：48 人
- (2) 令和 2 年 7 月 6 日課題提示 7 月 13 日回収 回答：51 人

4. 結果と考察

(1) 年長組の 1 年間 (12 曲の選曲)

4 月

春が来た	12 人(23%)	さんぽ	2 人(4%)
チューリップ	7 人(14%)	おはようのうた	各 1 人
蝶々	4 人(8%)	おべんとう	
あくしゅでこんにちは 一ねんせいになったら おはなが わらった さくら さくら せんせいとおともだち ドキドキドン！一年生	各 3 人 18 人(35%)	思い出のアルバム かわいいかくれんぼ シャボン玉 ともだち讃歌 春の小川 めだかの学校	

18 曲があげられた。「春が来た」「チューリップ」「ちょうちょう」で半数を占めている。他、「おはながわらった」「春の小川」など季節を感じさせる選曲となっている。「あくしゅでこんにちは」「おはようのうた」の生活習慣の歌や、「先生とおともだち」「ともだち讃歌」もあげられ、年度の開始月であることと子どもたちの新たな生活への期待感、緊張感が思い描かれる。

5月

コイノボリ (絵本唱歌)	44人(86%)	うたえバンバン おべんとうバス ¹⁾ *鯉のぼり すうじの歌 世界中のこどもたちが 蝶々 とんぼのめがね	各1人 7人(14%)
-----------------	----------	---	----------------

8曲があげられた。「こいのぼり」が44人(86%)で行事の歌として定着していることがうかがえる。1人があげた「*鯉のぼり」は文部省唱歌の方であった。「うたえバンバン」「おべんとうバス」(手遊び)などは、5月の遠足をイメージしたものとする。

6月

あめふりくまのこ	18人(35%)	雨のうた あめふりくまのこ あまだれぼったん おなかのへるうた すてきなパパ てるてる坊主 にじ はをみがきましょう ビューティフル・ネーム	各1人 9人(18%)
かたつむり	14人(27%)		
かえるの合唱	7人(14%)		
大きな古時計	3人(6%)		

13曲があげられた。時期的に雨に関連する曲が多くあげられている。「大きな古時計」は6月10日の「時の記念日」を、「すてきなパパ」は6月の第三日曜日の「父の日」を考慮したものとする。「雨のうた」は「アメフリ」の間違いであろう。ゴダイゴが歌う「ビューティフル・ネーム」が、なぜ6月での選曲なのか不明であるがとても興味を持つ。

7月

たなばたさま	38人(74%)	おばけなんてないさ しずかな湖畔 ぼくのミックスジュース 虫の声	各1人 4人(8%)
うみ	3人(6%)		
アイスクリームの歌 きらきら星 にじのむこうに	各2人 6人(12%)		

9曲があげられた。行事の歌として「たなばたさま」が多くを占めている。空にまつわる「きらきら星」「にじのむこうに」も関連性がうかがえる。「うみ」「しずかな湖畔」、風物詩

と言えるかもしれない“おぼけ”についても夏の季節を踏まえた選曲だと考える。「虫の声」は～秋の夜長を鳴き通す～ので、秋に関する歌であろうと考えるが選曲の意図は不明である。

8月

うみ	15人(29%)	アイアイ	各1人 8人(16%)
おぼけなんてないさ	9人(17%)	海の歌	
アイスクリームの歌	6人(12%)	うみのそこにはあおいうち	
手のひらを太陽に	5人(10%)	朧月夜	
すいかの名産地	各3人	キャンプだホイ	
南の島のハメハメハ大王	6人(12%)	とんぼのめがね	
ガンバリマンのうた	2人(4%)	にじ	
		やまびこごっこ	

15曲があげられた。夏の季節に関連する曲が大半を占めている。「アイアイ」は～みなみのしまの～イメージでの選曲であろう。「海の歌」については15人があげた童謡「うみ」なのか、それとも某携帯会社のCMで使われている曲のことなのかは不明である。唱歌「朧月夜」の選曲も子どもたちの音楽表現には有効に捉えたいが、季節としては春の季節の歌であり真意は不明である。「キャンプだホイ」「やまびこごっこ」は歌遊びで海・空・川の風景がうかぶ曲である。6月にも挙げられた「にじ」については毎年、ピアノの授業でも学生がととも力を入れて練習するおだやかな名曲である。春で梅雨時のイメージではあるが、有効に受け取りたい。

9月

とんぼのめがね	14人(27%)	秋の歌	各1人 13人(25%)
虫の声	7人(14%)	大きな栗の木の下で	
赤蜻蛉	各3人	おそらはきらきら	
どんぐりころころ	9人(18%)	きのこ	
まつぼっくり		ゴーゴーゴー	
アイスクリームの歌	各2人	しずかな湖畔	
線路は続くよどこまでも	8人(16%)	手のひらを太陽に	
ちいさい秋みつけた		ドコノコキノコ	
やまびこごっこ		はなび	
		パプリカ	
		紅葉	
		やさいもグーチーパー	
		夕焼小焼	

10月

虫の声	9人(18%)	まつぼっくり 紅葉	各2人
やきいもグーチーパー	8人(16%)		4人(8%)
きのこ どんぐりころころ	各5人 10人(19%)	おばけずかんのうた 菊の歌 シンデレラのスープ 手のひらを太陽に にじ 森のくまさん 山の音楽家	各1人 7人(13%)
おばけのかぼちゃ	4人(8%)		
うんどうかい おばけなんてないさ 大きな栗の木の下で	各3人 9人(18%)		

11月

まつぼっくり	14人(27%)	大きな栗の木の下で きのこ	各2人 4人(8%)
紅葉	11人(21%)	コンコンクシヤンのうた ちいさい秋みつけた 虫歯建設株式会社 雪	各1人 4人(8%)
たきび	6人(12%)		
山の音楽家	5人(10%)		
やきいもグーチーパー	4人(8%)		
どんぐりころころ	3人(6%)		

9月で最も多い22曲、10月は17曲、11月は12曲があげられた。秋の季節に関連する曲が大半を占めている。9月の「ゴーゴーゴー」、10月の「うんどうかい」は運動会で使用される曲である。10月の「おばけのかぼちゃ」「おばけずかんのうた」は行事である“ハロウィン”を見据えた選曲と考えられる。11月に挙げられた「コンコンクシヤンのうた」からは“風邪”のシーズンを連想させてくれる。「やきいもグーチーパー」「きのこ」など“食欲の秋”を連想もされるだろう。関連付けてなのか「虫歯建設株式会社」の選曲も面白い。「菊の歌」と書かれていたが見つけれなかった。

12月

あわてんぼうのサンタクロース	27人(53%)	うさぎのはらのクリスマス お正月	各1人
ジングルベル	13人(25%)	クリスマス サンタが街にやってくる	6人 (12%)
赤鼻のトナカイ	5人(10%)	We wish you a Merry Christmas やきいもグーチーパー	

9曲があげられた。「やきいもグーチーパー」「お正月」以外、すべて“クリスマス”に関連する曲となっている。「きよしこのよる」といった讃美歌がいくつか選曲されるのではないかと考えたがあがっていない。「クリスマス」という曲が不明である。「お正月」について

は、1月での選曲が多いであろうと推察したが、歌われている歌詞 ～もういくつ寝るとお正月～ から、歌われる時期については12月であるということだろう。

1月

お正月	30人(59%)	こぎつね コンコンクシャンのうた 十二支のうた 雪のこぼうず やぎさんゆうびん	各1人 5人(10%)
雪	9人(18%)		
北風小僧の寒太郎	3人(6%)		
しあわせなら手をたたこう もちつき	各2人 4人(8%)		

10曲があげられた。推察のとおり「お正月」が30人(59%)と多くあげられている。“お正月”関連で「もちつき」や「十二支のうた」の選曲がなされている。「雪」「こぎつね」は雪景色を連想させてくれる。また「北風小僧の寒太郎」「コンコンクシャンのうた」は冷たい風と風邪をこじらすという状況を思い浮かべる。「やぎさんゆうびん」については、お正月の風物である“年賀状”を連想しての選曲ではないかと考える。

2月

まめまき(絵本唱歌)	25人(49%)	コンコンクシャンのうた	2人(4%)
鬼のパンツ	15人(29%)	一年生になったら 北風小僧の寒太郎 世界中のこどもたちが	各1人 3人(6%)
うれしいひなまつり 雪	各3人 6人(12%)		

8曲があげられた。各月で最も少ない曲数である。やはり行事である“節分”に関連する曲が大半を占めている。「まめまき」が大半かと推察したが、「鬼のパンツ」を選曲するところには注目したい。嫌われ役の鬼の立場で、また“あそび歌”を取り入れた活動をイメージしてのことと考える。「雪」「コンコンクシャンのうた」「北風小僧の寒太郎」は冬の季節の歌としては人気があるのだろうと考える。「うれしいひなまつり」については、12月での「お正月」のように、2月からの行事活動という捉え方でなされた選曲だと考える。

3月²⁾

うれしいひなまつり	19人(36%)	大きくなったらなんになるう さんぼ たいせつなともだち チューリップ はじめての一步	各1人 5人 (10%)
思い出のアルバム さよならぼくたちの保育園 (幼稚園)	各9人 18人(35%)		
ドキドキドン!一年生 一年生になったら	各5人 10人(19%)		

10 曲があげられた。行事として“ひなまつり”の選曲が多い一方で、「思い出のアルバム」「さよならぼくたちの保育園（幼稚園）」など“卒園”関連の曲も挙げられている。小学校への進学の心配と期待、そして勇気を歌う「ドキドキドン！一年生」「一年生になったら」「はじめの一步」もあげられている。

（2）ドラムジカの作成

ドラムジカとは

ミュージカルでもない、オペレッタでもない、子どもたちのお気に入りの歌や園生活での歌、また友だちとよく口ずさむ歌など、既製の子どもの歌を使って、「歌」と「歌」の間をナレーションや台詞でつなぎ、台本を作って簡単な物語を進めていく音楽劇のことである。ドラマと音楽が一緒になったものということから「ドラムジカ」と命名された。保育者や教師が子どもたちと一緒にアイデアを出し合って、ストーリーを考え作品を作り発表することが出来る。既製のミュージカル、オペレッタでは多くの時間を要するが、園生活の時間で遊びの延長として気軽に取り組めるものとして考えられた。

作り方は、1. 歌いたい歌をみんなで話し合い、2. 挙げられた曲でどのような物語ができるか話し合う。3. 曲の順番を決め、4. 曲間の台詞を話し合い、5. 台本を作成する。

課題は学生が幼児を対象としたオリジナルのドラムジカ作品の作成とした。際して、事前に「ドラムジカ」の*台本例〈動物園は楽しいな〉をあげて解説を行った。条件として5曲以上の曲を使用することとした。

〈タイトル〉と構成

48 作の物語ができあがった。タイトルの表記は学生の回答のまま記す。同じタイトルについては集約した。

ジャンル	タイトル
遠足・ピクニック	〈ピクニック〉 〈遠足〉 〈遠足へ行こう！〉 〈楽しい秋の遠足〉 〈春の遠足〉 〈楽しい遠足〉 〈みんなで遠足・山のぼり〉 〈山にピクニック〉 〈海は気持ちいいな〉
散歩	〈散歩に行こう〉 〈そうだ、遊びに行こう！〉 〈お散歩に行こう〉 〈みんなで散歩は楽しいな〉 〈みんなで楽しくお散歩しよう！〉 〈さんぽは楽しいな〉
バス旅行	〈お店屋さん〉 〈魔法のバスにのって〉 〈楽しいバスツアー〉 〈バス遠足で水族館〉 〈海へ行こう〉
動物・生きもの	〈森の交番〉 〈山の絵描きさん〉 〈久世動物園は楽しいな〉 〈動物園にレッツゴー〉 〈動物園で「こんにちは」〉 〈たくさんの生き物〉

	〈動物園は楽しいな〉 〈動物探しに行こう〉 〈にんげんっていいな〉 〈海の中に入ってみよう〉 〈おともだち〉
探検・大冒険	〈宝探し〉 〈虫を見つけに行こう〉 〈無人島で大騒ぎ〉 〈探検隊になろう〉 〈森の探検ヘレッツラゴー！〉 〈鬼たいじ〉
園生活	〈たのしい一日〉 〈楽しい夏休み〉 〈雨の日は…?〉 〈みんなの一日〉
食べ物	〈何、食べようかな〉 〈フルーツパフェ〉
クリスマス	〈みんなでクリスマス会をしよう〉

子どもたちと先生という設定で、[遠足・ピクニック][散歩]にお出かけし、自然や動物と触れあうという構成が多いと感じた。また概ね、歩いての移動時には「さんぽ」～あるこう あるこう～どンドン行こう～をつなぎの音楽として使用していた。〈散歩に行こう〉では最初に出会ったアリさんが子どもたちを誘導していくという構成に興味をひかれた。[探検・大冒険]も舞台が“ひょうたん島”や“宝島”の設定ではあるが、移動に際しては「さんぽ」を用いて進行される。

歩いてではなく、バスでの移動に「バスに乗って」を用いて[バス旅行]の物語は構成されている。バスの車内では「バスごっこ」で遊び、動物園、水族館、山、海へと向かう。〈お店屋さん〉はバスに乗って八百屋さん、魚屋さん、パン屋さんに行きという物語であった。〈魔法のバスに乗って〉は年に一度やってくる“魔法のバス”に乗っての旅で、世界中にお友だちが出来ちゃうというプランで構成されている。

[動物・生きもの]の歌も多く用いられ、動物園を舞台とする構成も創造し易いと考える。〈森の交番〉は登場するのが動物のみで、森で起こる出来事に犬のおまわりさんが対応しながら物語が進んでいく。解決の際には“仲直り”として「あくしゅでこんにちは」が歌われる。問題を起こすのが“タヌキ”と“キツネ”という点も興味深い。“化かす”というイメージからなのではないかと考えるが、子どもたちへの関心の一つになりうるのではないだろうか。〈山の絵描きさん〉は先生が絵描きさん役として進行し、道中に絵の具を落とした絵描きさんのところに動物たちが絵の具を届けてくれる物語であった。動物に関する歌で“キツネ”“クマ”“タヌキ”“アイアイ”“いぬ”が登場し、届ける絵の具の色は「どんな色がすき」に沿っている。とても温かで微笑ましい情景が浮かぶ。

[園生活]をテーマにした物語がそれほど多くあがっていなかった。園での一日を歌でつないでいく構成であるが、〈たのしい一日〉は自宅から降園するまでの物語となっていた。〈楽しい夏休み〉は、明日から夏休みの子どもたちに、何をして過ごすかを妄想させるという構成となっていた。〈雨の日は…?〉は雨で外遊びができない子どもたちに、外で生き物たちは何をしているか考えさせるという物語であった。

[食べ物]に関する歌での構成もあげられた。〈何食べようかな〉は『はらぺこあおむし』(絵本歌)から始まり、様々な食べ物が提示され、最後には全部を混ぜて「ぼくのミックスジュース」で飲んでしまう。〈フルーツパフェ〉は先生と子どもたちとでフルーツパフェを

作る設定である。器に入れていく順に「アイスクリームの歌」「バナナのおやこ」「ちっちゃないちご（手遊び）」「アゲリシャス（CM ソング）」などを重ねていき、最後に欠かせないものとしてコーンフレークをあげ、漫才のネタを絡めての進行には笑わせてもらった。

〔クリスマス〕をテーマとする物語は一作のみだった。「山の音楽家」たちも参加しての園でのクリスマス会の設定であった。

5. まとめ

12 ヶ月の選曲では 109 曲の作品があげられた。うち 6 曲は筆者も初めての曲であった。5 月は端午の節句、12 月はクリスマス、2 月は節分、3 月はひなまつりや卒園式など、代表的な行事がある月においては 10 曲程度の曲数で、行事以外に季節での観点となる 4 月や 8 月から 11 月においては曲が多くあげられている。

ドラムジカにおいては、使用された曲数はのべ 279 曲となった。うち 32 曲は筆者が初めて知る曲とこれまでに授業でも扱うことのなかった曲であった。ほぼタイトルも重なることはなく、テーマとしては屋外での活動、自然と生き物との関わりが大半を占める結果であった。前記の 32 曲を扱っている作品（特記、取り上げた作品）については、物語の発想、展開がとても独創的で学生各々の創造力をうかがうことができた。一方で、〔散歩〕においての「さんぽ」を展開に使用するアイデアや、〔動物園〕というジャンルの多さについては、台本例の印象が強かったことも要因だと感じている。例題の提示法、言葉掛け等は今後も十分に注意したい事項である。

6. おわりに

今期は充分に時間も取れず、テキストから 100 曲も触れることが出来なかった。マスク着用もあり歌い込みもままならない中で、のべ 300 曲もの曲を学生があげてくれたことは、とても嬉しく感じた。ドラムジカの作成においてもこれだけのアイデアが出されていて、どれも実践ができていない、上演ができていないことに、もどかしさが増すばかりである。次年度こそは実践できることを願うばかりである。

いつマスクなしで歌える状況になるのか不安ではあるが、多くの子どもの歌を歌い込み、レパートリーを増やしていくことが大事だと考える。そこには学生自身で開拓していただくの読譜力の向上も潜んでいる。引き続き、内容の検討と改善を進めていく。

注

- 1) 網掛けの曲は筆者も初めて知った作品である。
- 2) 3 月の選曲について、1 人の学生が絞り切れずに「思い出のアルバム」と「一年生になったら」の 2 曲で回答した。そのため分母を 52 人で算出している。

参考・引用文献

- 全国大学音楽教育学会（2013）『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌』音楽之友社
真崎利夫（2007）『たのしいこどものうた 600 選』自由現代社
伊藤嘉子（2000）『子どもと作る劇あそび「ドラムジカ」』音楽之友社
伊藤嘉子（2000）『ドラムジカへのおさそい 初級』(株)エー・ティー・エヌ

***ドラムジカ 課題**

次回7月13日(月)授業時に提出・パソコン使用も可

さあ、ドラムジカを作ってみましょう。下記に例を記しますが、あくまでも例です。とても楽しい、独創的な音楽物語を作り上げてみてください。台本については、誰が見てもイメージできるよう分かりやすく記載してください。 〈条件〉*5曲以上を選曲してください。

[例]

タイトル	動物園は楽しいな
配役	・アイアイ ・白やぎ ・黒やぎ ・ぞうさん ・こぶた ・たぬき ・きつね ・ねこ *各2～3人ずつ ・子どもたち ・担任の先生(または、先生役の園児)
使用曲目	「さんぽ」 「ぞうさん」 「こぶたぬきつねこ」 「やぎさんゆうびん」 「アイアイ」

配役・登場者	台詞(セリフ)	アクション・備考
先生	さあ、みなさん。今から近くの動物園に遠足に行きましょう！	
子どもたち	やった～！ わ～い！ *自然にわいた声で	
先生	では、しゅっぱ～つ！！	
全員	♪「さんぽ」 ～・・・ どんどん行こう～ まで	*移動、つなぎの曲
子どもA	うわ、ぞうさんだ！ でかいなあ	ぞうさんが出てくる
子どもB	どうして、おはなが長いのかなあ・・・	【前奏入る】
ゾウ	♪「ぞうさん」	
先生	は～い つぎはこっちよ！	
全員	♪「さんぽ」 *つなぎの曲	
子どもC・D	あ、こぶただ！ たぬきもいるよ！！	
子どもE・F	こっちは、きつね！ ねこも歩いている	
全員	♪「こぶたぬきつねこ」	手あそびもつけて

こんな感じ！ あ、みなさんは終演：おしまい、まで作り上げてくださいよ！！